

看護部だより

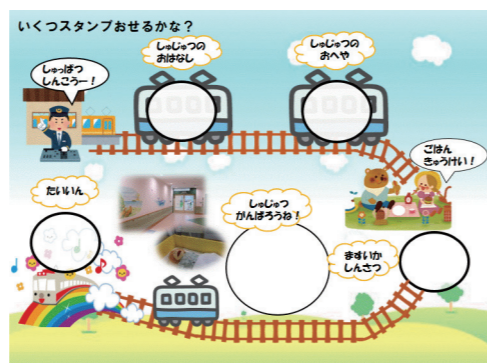
22病棟

こんにちは、22病棟です。22病棟は現在、小児外科、泌尿器科、形成外科、耳鼻いんこう科、歯科口腔外科の5科があり、全科ともに、主に手術を目的とした子どもたちが入院する病棟です。昨年度の手術件数は1144件あり、平均在院日数は5日で、比較的短期間入院の子どもたちが多い病棟となっています。生後間もない新生児から、中学生以上まで、入院する子どもたちの年齢は様々です。

子どもの年齢や入院目的に合わせて、私たちは日々、工夫しながら関わっています。特に、22病棟は手術を目的とした子どもたちが多いため、子ども向けの手術プレパレーション(子どもが知りたいと思うことを事前にわかりやすく伝え、心の準備をすること)に力を入れています。手術を受けることは、子どもや家族にとって、とても大きな出来事であり、不安も大変大きいものです。その不安を少しでも軽減でき、手術に臨むことができるよう、また入院や手術の経験が、子どもにとってプラスの経験となり、子どもの成長につながるように心がけています。今後も成長し続ける22病棟であるよう、日々頑張っていきます。



<人形(オペラちゃん)を使って、実際にイメージしやすくしています>



<スタンプラリーで、手術入院の励みになるように工夫しています>



<実際に手術室で使うものを見て、さわることができます>



<手術プレパレーションの様子>



私たちも活躍しています

臨床検査室

検査室というと皆さんはどんなイメージを持っていますか。
針で刺されて痛い思いをする。頭や体にベタベタするものを塗りたくられる。眠くもないのに無理やり寝かされる。何をしているのかわからない得体のしれない場所。
きっといろんなイメージがあると思います。
そんな検査室を簡単に表現すれば、裏方のお仕事と言えると思います。
患者さんに直接対応する生理検査や採血は別として、他のほとんどの検査は、検査室の中で、人知れず行われています。
検査室で行われる検査は生化学検査、血液検査、細菌検査、病理検査、輸血検査、心電図検査、脳波検査、肺機能検査、超音波検査など、いろいろな種類があります。
採血や生理検査では小児病院であることを常に意識して、子供の不安感を取り除くことや、検査に対する理解を深めてもらうことを心掛けています。
検体を取り扱う検査では検査結果をなるべく早く、しかも正確に提供することを常に心がけています。
三次救急に対応した検査では、ERや入院患者さんのために、特定の種類の検査について24時間体制で検査対応を行っています。
他にも、追加の検査に備えて貴重な検体を超低温で保管したりしています。
病気の診断や治療、経過の観察や予防などに検査の結果は欠かすことができません。
実は、検査室は地味だけど縁の下の力持ちなのです。



<こう見えても、力持ちです>

